



情報労連は、情報通信・情報サービス産業、通信建設業を中心とした産別で、NTT労組、KDDI労組、ソフトバンク労組をはじめ、約230組合、19万人の組合員で構成しています。1991年には、「複合産別」として、印刷・運輸・製造・建築・ビルメンテナンス・医療・福祉等の労働組合も加盟しています。

前身となる電通共闘が結成されてから63年が経過し、この間、国民のための電気通信事業を守り、健全な事業や社会の発展を目指すとして運動を展開してきました。この間、「自分たちの利益だけでは

なく、すべての人が幸福になれる社会があってこそ、組合員が安心して働き暮らせる」との考えのもと、社会の不条理に對峙し、労働者の権利や団結権等を守る闘いとして、平和・人権など社会正義を取り巻く環境や時代の変化を踏まえ、政策の基本的なスタンスを明確にするため、「情報労連21世紀デザイン」を策定し、「自立たり平和運動に取り組んできました。また、東日本大震災

信頼と共感を得る「社会的価値ある労働運動」を推進

義や健全な民主主義を追求するとともに、信頼と共感を得る「社会的価値ある労働運動」を推進してきました。この視座は、時代が変わっても変わるものではなく、次代につながる情報労連運動の不変の理念となっています。

例えば、活動の根底には、「平和なくして労働運動なし」という

や非正規労働者の処遇改善、労働時間の適正化および勤務間インターバル制度の導入等に取り組み、25春闘においては、「つながらない権利」をはじめ働き方に関する要求等を行ってきました。暮らしやすい社会の実現に向けては、安定的な集団的労使関係を拡大するとともに、多様な働く仲間との連帯のもと、働く者の社会的地位の向上を図っていくことが重要であり、組織拡大を通じて、働く仲間の輪を広げ、産別労組としての責務を果たし、働く仲間の生活と仕事の安心・安全を追求しています。

春闘では、賃金改善